

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	6 6		学校名	県立筑波高等学校					課程	全日制		学校長名			石塚 照美			
教 頭 名	大塚 健司												事務長名			栗原 徹		
教職員数	教諭	2 2	養護 助教諭	1	常勤 講師	2	非常勤 講師	1 1	実習教諭、実習講師、実 習助手		1	事務職 員	3	技術職 員等	4	計	4 7	
生 徒 数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		合 計 クラス数				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科			5 0	3 9	3 6	3 4	2 9	2 4	—	—	1 1 5	9 7	8				

2 目指す学校像

「地域に支えられ、地域を支える高校生の育成」を目指し、 地方創生に貢献できる人財を輩出する学校	【実践目標】 正しい判断 自主的行動	【育てたい資質能力】 人間力 他者とかかわり協働する力 自他を尊重し思いやる心 粘り強くやり遂げる力
--	--------------------------	---

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○ 人間力（①他者とかかわり協働する力 ②自他を尊重し思いやる心 ③粘り強くやり遂げる力）を培い、地方創生に 貢献できる人財の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○ 個に応じたきめ細かな学習指導を徹底するとともに大学等との連携を図るなど、多様なニーズに対応した進路希望を 実現するためのキャリア教育の実施
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○ 自らを社会の中の一員として意識し、学校生活に積極的に取り組む意欲のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現 状 分 析	課 題
学習指導	基礎学力を身に付けるために、習熟度別授業や少人数授業、単元ごとの小テスト、年3回の「一般常識テスト」を実施している。その結果、学習で学んだことの振り返り活動を行うなど、スモールステップでの学習形態が確立している。また、進学希望の生徒に対しては、学力向上のために課外授業、休み時間や放課後の個別指導を実施している。	学習意欲や基礎学力の個人差が大きいと、教員の授業改善と個に応じた学習指導の工夫が必要である。四年制大学や短期大学、専門学校など上級学校への進学を目指す生徒の希望を叶えるため、個別の学習指導体制のほか、組織的な指導体制を構築する必要がある。
進路指導	生徒の進路希望が多様化しており、進路実現のために、定期的に進路ガイダンスや進路別見学会を実施している。ハローワークとの連携により、就職者の内定率100%を8年連続で達成できた。また四大・短大進学者は、令和元年度11.1%、令和2年度12.3%、令和3年度22.4%、令和4年度15.0%となっている。	早期からキャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育むことで、生徒の就職活動への意欲が高まり、好成績を維持している。また、アカデミックコースを設置しているものの、大学及び短大への進学者数は全体の2割前後であるため、1年時から進学意欲を高め、継続的に学習を続けるための方法を講じる必要がある。
生徒指導	基本的生活習慣の定着、規範意識高揚を目的としたマナーカードを導入から11年が経過し、授業態度、服装容儀、日常生活等の改善が見られている。また、「Shihou Card（至宝・紫峰カード）」導入により、ほめる指導、生徒の意欲を引き出す取組も10年目を迎え、定着しつつある。	学校の内外に関わらず、規範意識を高め「自主的行動」のできる生徒を育成するために、「つくばね学」や学校行事等を通して内面的な成長を促すことが必要であると考ええる。

別紙様式 1 (高)

特別活動	学校行事については、生徒主体の運営が行われている。また、現在活動中の部では、弓道部が関東大会以上の出場実績をもっている。部活動加入者は礼儀正しく、学校行事の運営等に関わるなど、貢献度が非常に大きい。	歩く会や百人一首大会などの伝統的な学校行事を通して、愛校心を養う。今後は、学校行事への意識と部活動の加入率をさらに高めること、「キャリア・パスポート」活用の充実が課題である。
働き方改革	教職員数が少ないが、副主任が機能することで組織力の向上が見込まれる。また、会議等に I C T を活用することで、組織的業務の軽減につなげられる。	I C T の活用と組織的に業務に取り組むことで、教育的効果を低減させることなく、働き方改革を推進できる。

5 中期的目標

1	きめ細かな学習指導を徹底すること、生徒の学習に対する興味関心を引き出し、進学率を向上させる。
2	生徒に「正装」という概念を身に付けさせ、正しい制服着用の意義を指導する。また、スクールカウンセラーの活用や職員の特別支援教育に関するスキルアップに努め、「心の教育」の充実を図る必要がある。
3	大学等と連携するなど進学指導の充実を図り、四年制大学進学者を全卒業生のうち 30%以上を目指す。進学実績を高めるためには、上級学校の魅力や受験の仕組みを伝える機会を設けるとともに、学力を向上させることが不可欠であるため、個に応じた指導体制に加え組織としての指導体制の強化を図る。
4	部活動を精選するとともに、複数の顧問を適切に配置するなど体制の見直しを図ることで、部活動の活性化を図る。
5	組織力を向上させるとともに I C T を活用することで、組織的業務の軽減を図り、働き方改革を進める。

6 本年度の重点目標

重点項目	重 点 目 標
I 基礎学力の確実な定着と進路指導の充実	① 学校設定教科としての筑波サポートタイム (TST) やティーム・ティーチング、少人数授業の積極的な実施により、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。 ② 進路指導において、動機付けや意識の高揚を図る工夫に努めることで、生徒の進路実現に結び付ける。 ③ 自己の適性理解に向けた進路講演会の開催、「進路の手引き」や関係教材等を活用した L H R を計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。
II 生徒指導の充実	① 生徒や保護者に学校の指導方針を伝え、学校と家庭が協力して、基本的生活習慣の確立に努める。 ② 「マナーカード」及び「Shihou カード」を効果的に活用し、生徒の自己管理能力や自己肯定感を高める。 ③ いじめの未然防止、早期発見に努め、組織として迅速に対応する。 ④ 教職員自らが人権意識を身に付け、生徒理解に努め、生徒指導のスキルアップを図る。 ⑤ 特別支援教育に関する理解を深めたり、カウンセリング的な相談スキルを高めたりすることで、生徒の自立を支援する。 ⑥ 学校行事やボランティア等を通して責任感、自立心、忍耐力を養い、自主的に活動するリーダー的人材を育成し、学校の活性化を図る。
III キャリア教育の充実	① 2 年生におけるインターンシップ (希望制) や「つくばね学」の実施を基礎に、3 年生では「つくばね学」の探究を深める。また、「キャリア・パスポート」の活用をすすめることにより、キャリア教育を一層推進する。 ② 先を見通した体系的な進路指導を行うとともに、保護者へ進路情報を積極的に提供し、進路実現に向けた取り組みへの理解と協力を得る。 ③ 各大学・短大の情報を整理・公開し、進学意識の向上を図る。また、デジタル求人票を活用することで、就職内定率 100%を維持できるよう、就職指導を充実する。
IV 地域や異校種との連携	① 地元の風土や自然及び地域の教育力を生かす「つくばね学」「つくばね学探究」をさらに充実させ、2 年生及び 3 年生全員による地域や筑波学院大学と連携した体験的な学習活動を実施し、生徒の「人間力」の向上を目指す。 ② 地域の義務教育学校訪問や筑波大学と連携した百人一首大会等の伝統行事を行うことで、生徒に愛校心や郷土愛を醸成し、地域を担う人材の育成に努める。 ③ 中学校と緊密に情報交換を行うことにより、信頼関係を構築する。 ④ つくば市との連携を積極的に図り、地域に根ざした高校として地域に貢献する。
V 働き方改革の実現	① 各学年及び各部において、副主任が機能する組織づくりによって組織力を向上させ、働き方改革の実現を目指す。 ② 教育的効果を低減させることなく、会議、打ち合わせ等の業務の精選や実施方法の改善を図る。
VI 授業の改善	① 電子黒板等の積極的活用と、学び合いなどを通して生徒の理解力を高め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ② 教員相互の授業参観や意見交換等を積極的に行い、個々の教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲を喚起する。 ② 生徒による授業満足度 75%以上を目指す。